

2008年度3年次編入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文 利用	実技 試験 作品 利用
日本画		提出作品(50号以上2点)の制作意図と表現および技術的レベルと作品に対する総合的判断を中心に本学志望理由と小論文を参考に判断した。	○	
油 画		自分なりの充実した制作をしているか。各自の大学編入学後のビジョンはあるかどうか。どのような意図を持って制作しているか、本学を選んだ、また油画専攻を選んだ理由が明確かどうか。受け入れる学年に相当するだけの作品と思考が充実しているかなどを総合的にみて採点している。	○	
彫 刻		本学への進学意図や具体的な志望領域及び将来への展望など明瞭に述べられるか。また、本学科カリキュラムの適応能力などを提出作品などを通して審査する。	○	
工 芸		なぜ本学の工芸学科で学びたいのか。3年次からは専門的、立体的な制作へと向かっていく。アイデアの展開や技術の学習は3年時編入にふさわしい蓄積があるか。提出作品を介し、今後の制作目標も含めながらその能力を検討する。 小論文からは、本人が普段からどのような思考をしているのかも読み取りたい。	○	
グラフィック デザイン	出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーション効果を造り出すのに必要な造形力を求めている。鉛筆デッサンでは、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなど描く描写力、色彩構成では課題を造形化する発想力と構成力を問う。	・編入学志望理由が明確であるか。 ・入学志望理由が明確であるか。 ・授業への取り組みの意欲があるか。	○	○
プロダクト デザイン	与えられた材料(板バネ)を応用して新しい道具を4種類創造し、スケッチする課題を出題した。出題のねらいは、4種類の道具のアイデアに独創性があるか、そのアイデアをきちんと表現できているかを見るためです。これらの達成度が採点のポイントになっている。	作品のポートフォリオによる面接を行った。面接試験のねらいは、当専攻の1、2年次で修得すべき実技内容をクリアできているかを見ることである。当専攻1、2年レベルのデザイン習熟度が採点のポイントになっている。	○	—
テキスタイル デザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力、色彩表現力に加えデザイン力を問うことをねらいとして出題した。また、解答の中に設問に対する解釈と独自の表現が示せているかを採点のポイントとした。	受験者が本専攻の基礎課程(1、2年次)と同等の実力を有しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査した。さらに、口頭および記述によって自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかも評価の対象とし、採点のポイントとした。その際に共通教育の小論文を参考にした。	○	—
環境デザイン	本学一般入試と同レベルのデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	在籍中の学校において本学科の1,2年次で学ぶ内容と同等以上の教育を受けているか、また本学科の3年生と同レベルの知識、デザイン力があり、授業についていけるかどうか。学校を変えること、専門分野を変えることに対する目的意識がはっきりしているか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価した。	—	○
情報デザイン 情報芸術コース 情報デザインコース		・編入学の意図や目標が明確であるか。 ・デザイン・アートに関した一般教養レベルの知識があるか。 ・学科・コースの制作教育内容やカリキュラムを充分理解しているか。 ・これまでどのような活動を行ってきたか(作品や研究)のプレゼンテーションに説得力があるか。	○	
芸術		・志望理由 ・芸術に対する考え方 ・芸術学科の特色を理解しているか ・研究テーマが明確か ・学業への熱意	—	

全学科共通小論文

編入する、そう決意するにいたった意思のはたらき。文章にはなにを書いても……たとえ天気のことだけを書いても、書いている自分があらわれてしまうという属性がある。だからこそ、ここではたらい「意思」に筆記具をにぎらせたい。文章が流れてこないはずはない。要はきっかけをあたえることで、これほど魅力的な題はあるまい。800字といったら、一息で読めてしまう量であるが、書く側はいったい幾度息をして完成させるか。闘い、争い、芸術、それぞれの語にどうかかかっていくか傾向はわかるが、現在ただいまの、この大学にはいろいろとする……他のだれでもなく、だれにもかわってもらうことのできない、その人自身を表現するのに十分な字数である。